

11	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102013	分子振動励起・回転誘起の素過程を探る結合モード光散乱スペクトロスコピーの構築	高木 堅志郎（東京大学・生産技術研究所・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>分子振動励起・回転誘起の素過程を探る結合モード光散乱スペクトロスコピーの装置が完成した段階なので、このまま研究を進め、物質を選んで結果を出すことが期待されており、それが可能な段階にあると判断する。</p> <p>これまでの研究成果の中で、光散乱受光計に光ヘテロダイン分光法を導入して、数%から 0.1%にまで精度向上を計っている点が評価できる。更に、相関光誘起カー効果スペクトロスコピーを開発して、熱ゆらぎと他自由度のカップリングを測定し議論している点が新しい。今後の発展が期待できる。</p>				
12	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102015	ナノデバイス製造用超精密・微細加工システムの開発	新野 秀憲（東京工業大学・精密工学研究所・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>これまでのところ研究はほぼ順調に進捗しており、各要素技術の開発においては工業的・学術的価値の高い成果があげられている。個々の要素技術を統合するフェーズにおいては想定外の問題に遭遇することも多く、今後の研究遂行においては、要素技術の開発に終わることなく、新加工システムの実現に十分努力をはらっていただきたい。</p>				